

Rotary



国際ロータリー
第2620地区

御殿場
ロータリー
クラブ

週報



御殿場
ロータリークラブ
モバイルサイト

<https://www.gotemba-rc.gr.jp/>

第2820回 例会プログラム

- 例会場 / 名鉄菜館
- 開会点鐘 / 12:30 ● 国歌斉唱
- ローターソング / 四つのテスト
- 内容 / 環境月間卓話
株式会社サンファーム富士小山
代表取締役 齋藤久哉様
プログラム委員会

会員慶事

- 皆出席 / 3月28日 齊藤礼志君
(ロータリー歴27年)

会長挨拶

豊山 篤



皆様「当たり前」の反対の言葉はご存じでしょうか。一般的、代表的には「有難い」だそうです。ありがたや、ありがたや、ありがたの語源であり、「有ることが難しい」ということだそうです。「当たり前」は、当然だ、普通だと思ってしまう状態で、そこには感謝も生まれにくいと思われま

す。つまり、「有難い」とは、本来はめったにないほど貴重なこと、という意味です。例えば、家族がいること、健康であること、水が飲めること、誰かが支えてくれること、これらは本来奇跡のように得難いこと、「有難い」ことなのに、慣れると当たり前を感じてしまいます。

人との出会いも同じではないでしょうか。

私たちは日々、濃いも薄いも含め多くの人と出会います。このロータリーの仲間との出会いも同様です。メンバーと普段例会で会ったり、さらには新入会員が入会してきて知り合いになるのも、どこか当たり前になっている気がします。

ですが、この広い世界の中で、同じ時代に生まれ、同じ

地域で出会い、同じテーブルでこうして顔を合わせていることは、実はとても「有難い」ことなのではないでしょうか。

本日新しい仲間として、小栗幹一君をお迎えしました。そして本日を最終例会として今月いっぱい、柏原大地君、鬼形慎太郎君は退会されます。さらには来月、池上司君も退会される予定です。3名の方たちと入れ替わりの新しい方たちも、入会を希望して下さっております。

退会される方たちとの別れは寂しいです。でも、新しい出会いはとても楽しみでもあります。この貴重な出会いやさらにはその結果訪れる別れを改めて大切にしたいです。

また、退会される方たちとの今後の再会は、別れがあるからこそさらにとっても嬉しいことになるでしょう。

今年もこれから桜は美しい花を咲かせるでしょう。しかし、やがて花は散り、そして少し寂しい気持ちになります。ですが、世の中は来年もまた、「そこまで大騒ぎしなくてもいいだろう」、と個人的には思ってしまうくらい桜の花が咲くのを楽しみにします。散るからこそ、また会える春が待ち遠しいのです。

簡単なことではないと思いますが、改めて「一期一会」を大切に、「有難い」ことに感謝することを見つめ直したいです。



会長挨拶はこちら

3/26の出席報告

会員数	出席計算に用いた会員数	出席者数	暫定出席率	前々回の確定出席率
54名	50名	44名	88.00%	100%

欠席者 (6名) 梶 喜朗君 神谷高義君 勝亦敦志君
嶋田康一君 高橋隆造君 山内 剛君

※やむを得ず欠席される方は、午前9時50分までにご連絡下さい。



司会 長谷川雅也君



ソングリーダー 池上 司君



出席報告 込山正一郎君



退会 柏原大地君



退会 鬼形慎太郎君



YMCA東山荘退職 前々事務局 滝口敦子さん



新入会員 小栗幹一君



新入会員 小栗幹一君



よいことのために
手を取りあおう

次回
4月8日の
例会

★御殿場高原ホテル
★18:00
★観桜会(4クラブ合同)
長泉ロータリークラブ



PELSに参加して

会長エレクト 渡辺 修司 君

皆様こんにちは。

3月22日晴天の日曜日、藤枝の小杉苑で行われたPELS（会長エレクトラーニングセミナー）なるものに、次期幹事の勝又安彦君と参加してきました。10時点鐘で本会議1が始まり歓迎の言葉やガバナー挨拶、来賓の紹介などが行われました。そして流れの中で次年度のR1会長 オラインカ・ハキーム・ババララ氏（ナイジェリア）の紹介が行われ、今年のメッセージ「CREATE LASTING IMPACT」（持続可能なインパクトを生み出そう）が発表されました。これは若林ガバナーエレクトによりますと、一時的な成果や単発の事業に終わるのではなく、地域社会に長く良い影響を与え続ける活動を目指すことを意味していて、奉仕の「量」よりもどのような変化とIMPACTをもたらすかが問われているそうです。

御殿場ロータリークラブも今年度の豊山会長の多様性というテーマのもと、変化というきっかけで未来に残る結果というIMPACTを残せるような活動をしていかなければと、改めて思いました。

そして午後の本会議2 野口パストガバナーによるラーニングファシリテーター講話は、昼食後の満腹感と会場の適度なぼかぼか感で睡魔との戦いでした。ですのであまり記憶がないのですが、野口さんが強くおっしゃっていたのはそれ相応の人頭分担金を払っているのだから、クラブ運営にもっとMyROTARYラーニングセンターを活用して色々な情報を仕入れてほしいということでした。ロータリーに関するあらゆる情報が詰まっているのでこれからのクラブ運営に必ず役に立つと言っておられました。

セミナーの最後に若林ガバナーエレクトが、ロータリーの奉仕活動は仕事ではないのだから、無理をしないで出来る範囲の息の長い活動をお願いしますとおっしゃっていたのが印象に残りました。

今回PELSに参加して研修を受け、色々な方々と話をして強く感じたことがあります。それは、ロータリーは「人」で出来ているということです。当たり前のことのようですが、クラブの活動も、例会も、奉仕活動も、地区大会やIM、すべては会員一人一人の参加と協力によって成り立っています。組織や制度があるわけですが、結局のところクラブの雰囲気を作るのも、活力をうむのも「人」なんだと改めて感じました。考えてみれば、御殿場ロータリークラブも来年60周年と長い歴史がありますが、それは建物や名前が続いてきたわけではなく、先輩方お一人お一人が人として、思いをつないできて下さったからこそ、今日があるのだと思います。今回のPELSで得たこの気づきを、次年度の準備に役立てていけたらと思います。ありがとうございました。

3/26のスマイル

小栗さんが入会されます。皆さんどうぞよろしくをお願いします。歌が上手です。

勝又 淳君



SELSに参加して

幹事エレクト 勝又 安彦 君

3月22日、藤枝小杉苑にて開催されました「幹事予定者研修」に参加してまいりましたので、ご報告いたします。

当日は第2グループから約100名が参加し、大変活気のある研修となりました。

研修の冒頭で印象的だったのは、「幹事はこうあるべき」という型にはめた指導ではなく、それぞれの立場や経験に応じた、実践的な内容であったという点です。正解を押しつけるのではなく、参加者自身が考えるスタイルで進められました。

参加者の顔ぶれを見ると、幹事予定者のうち約3割がすでに2度目以上の経験者でした。継続的に幹事を担う会員がこれほどいるということは、それだけ使命感と責任感の表れではないかと感じました。

また、第2グループ全体を見渡すと、幹事を担う会員のロータリー歴が意外と浅いという実態も明らかになりました。経験年数が少ない中でも中核的な役割を担う姿勢は、私自身にとっても大きな刺激となりました。

そして今回、私が最も驚いたのがロータリーの女性会員の歴史についてです。

女性がロータリーで活躍できるようになったのは、1987年、米国連邦最高裁の判決がきっかけでした。100年以上の歴史を持つ組織が、つい数十年前まで女性会員を認めていなかった。そして、それが最高裁の判決という形で決着したという重さを、改めて突きつけられた気がしました。

私たちが今、当たり前のように女性会員と共に活動できているのは、そうした歴史の積み重ねの上にあるのだと一研修を受けながら、考えさせられました。

そして「幹事とは何か」を学びに行ったはずが、「ロータリーとは何か」を考えて帰ってきた。そんな研修でした。

また、今回の研修を通じて第2グループの幹事予定者の皆さんとも顔つなぎができました。今後はグループ内でも積極的に意思疎通を図りながら、共に歩んでまいりたいと思います。

幹事の仕事は、皆様のご協力がなければクラブ運営はできません。どうぞよろしく願いいたします。

本日、発表の機会をいただきましたこと、ありがとうございました。

3/5のメーキャップ

11月1日	オープンハウス	瀬戸正人君
3月6日	北海道Eクラブ	田代明人君
3月9日	北海道Eクラブ	梶 喜朗君
3月10日	北海道Eクラブ	神谷高義君

